

令和5年度 県立加古川北高等学校 学校評価

【評価】 4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった

部署	主な業務	本年度の目標	目標達成に向けた実践項目	数値目標	問	全体	次年度に向けて	
教務	教育課程の編成及び実施 授業公開・研究授業・授業評価 校務支援システムの運用 ICTを活用した授業の推進	観点別評価を通しての授業改善	1 観点別評価の妥当性や信頼性を高める	令和5年度中に評価規準を作成する	1	2.9	・新学習指導要領が1年次から3年次まで対象になるため、学業成績評価に関する教務規定を改定する。 ・カリキュラム・ポリシー『ICTを効果的に活用し、わかる喜びを大切にしたいきめ細やかな指導に取り組む』の実現に向けて、授業改善を推進する。	
		ICT機器の効果的な活用	2 タブレット端末を効果的に活用した授業を推進する	45・46回生の3分の1以上の授業でiPadを活用する	2	3.2		
保健生徒指導	生活指導・交通安全指導 「くすのき」での周知 いじめ防止・対応 生徒会活動の充実 部活動活性化 応急処置 健康相談 衛生環境整備 「保健だより」 カウンセリング関係運営	いきいきとした規律ある学校生活の支援とサポートが必要な生徒への対応	1 様々な問題や多様化する生徒に対して、教師の共通理解と指導体制の強化	いじめアンケート月1回 いじめ件数0 教員研修会2回	3	3.2	・いきいきとした規律ある学校生活の支援、及び、多様化する生徒への対応し、行事などを含む生徒の満足度を高める。 ・今年度、体育大会を加古川総合体育館で実施し、事後アンケートでも体育館で実施することに生徒・保護者・職員とも概ね好意的な意見が多かった。学校行事の実施の中で工夫をしながら、生徒の主体性を高める指導を行う。	
			2 「熱中症」に対する情報提供	生徒や職員に向けての研修会を実施	4	3.5		
ガイダンス	進路情報提供 進路研修(教員) 進路講演会等運営 社会人基礎力育成 「進路通信」発行 「ガイダンスブック」発行	年次団と連携した進路実現のための効果的な進路指導體制の確立	1 3年次生の不安や焦りに対する適切なケアと、それに対応する教員向け研修会や検討会の実施	随時 研修会・検討会年5回	5	3.5	・来年度から始まる新課程入試に対応し、研修会や説明会、進路通信の充実を図り、最新の情報を職員・生徒・保護者に提供する。 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の育成に対応した、総合的な探究の時間の計画及び指導の充実を図る。	
			2 進路通信を発行し、Classiで配信し、生徒・保護者への情報提供や進路意識の向上に努めるとともに、高校生就労体験事業を通じて社会人としての資質・能力を育成する	進路通信：年7回以上 就労体験事業：生徒の満足度80%以上	6	3.5		
			3 総合的な探究の時間の計画を立て、実践する	発表の場を2回設ける	7	3.5		
教育マネジメント	総務	教育環境の整備 防災意識の向上	1 効果的な行事の計画、調整、実施		8	3.2	・行事の精選、行事日程の変更などに取り組んだが、抜本的な改革には至らなかった。次年度に向けて、日程の調整や計画を積極的に取り組んでいきたい。 ・今年度は、年度初めの避難訓練と11月のシェイクアウト訓練の2回として実施した。来年度は、予定内容を実施する訓練ではなく、生徒に考えて行動を促す実践的な訓練を実施したい。 ・職員数、クラス数が減少していく中で、いかに学習環境の維持をはかっていくかが鍵となっている。ゴミの分別はもちろんのこと、日頃からゴミを極力出さない意識、汚したら汚した人が対処するような美化意識を持たせるようにしたい。	
			2 各種防災訓練の実施	年間2回	9	3.2		
			3 日常清掃からの校内美化活動の推進 学期毎、式典前大掃除、校舎内外の清掃	年間3回(各学期1回)	10	3.3		
	国際	異文化交流・理解	4 校内で実施可能な英語研修を充実させる 短期語学研修を通じて異文化交流を図る	年間2回	11	3.4	・今年度4年ぶりに海外短期語学研修を実施することができ、事前・事後指導も合わせ、参加生徒たちの著しい成長がみられた。またその成果発表により他の生徒たちにも少しは還元できたように思う。3月の1年次生徒対象のIntercultural Dayと合わせて、生徒たちのさらなる国際理解につなげていきたい。	
			図書	図書委員会を活性化し、開かれた図書館となることで読書活動を推進する	5 校内では、ヒブリアバトル校内大会や朗読会を実施しつつ、校外で、加古川ウェルネスパーク図書館との連携活動を積極的に行う	朗読会：1回 レファレンス大会：1回 ヒブリアバトル：2回		12
	6 生徒配布し、クラスで保護者にも報告、案内するなど、風通しのよい図書館を目指す	年間6回			13	3.3		
	人権	豊かな人間性を育てる	7 人権HRや人権映画会の内容を充実させ、計画的に実施	人権HR：年2回 人権映画会：1回	14	3.3	・人権映画鑑賞会を企画することにより、生徒の人権意識の向上を図りたい。 ・教職員の人権意識のさらなる向上を目指したい。	
			8 全教員対象に人権教育群研修会を実施	年1回	15	3.4		
	募集広報	オープンスクール、オープン・ハイスクール運営 学校説明会訪問 「学校案内」作成 「加古北タイムス」発行 学校HP刷新	募集活動と広報活動の充実を図り、受験者数のアップを目指す	9 積極的な学校説明会(塾・予備校含む)への参加	年間5回以上	16	3.4	・積極的に学校説明会等への参加を行い、加古北の良さをアピールする。 ・HPの更新を日々行い、加古北の日常を発信することによって、受験者増につなげていきたい。
				10 「加古北タイムス」の発行 学校HPのリアルタイムな更新	年間8回以上 年間250回以上	17	3.4	

【評価】 4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった

部署	主な業務	本年度の目標	目標達成に向けた実践項目	数値目標	間	全体	次年度に向けて	
1年次	学習・進路 家庭学習習慣の定着 進路情報提供 面談(二者・三者)	それぞれの進路に応じた適切な学習指導と生徒に寄り添った指導	1	具体的な進路を考えさせ、主体的に学ぼうとする意欲を育てる。	二者面談を学期1回以上実施	18	3.4	それぞれの進路選択に向けて細やかな面談が実施できた。次は学ぶ意欲を育てていきたい。
			2	授業を大切にしたいうえで、家庭学習時間をさらに確保し、英数国を中心とした基礎学力を固める。	1日2時間の家庭学習時間	19	2.7	年次集会、年次通信、HR、授業などで、家庭学習の大切さを伝えてきたが、なかなか成果が出ていないように感じる。加古川北高校全体の課題ではないだろうか。諦めずに、伝えていきたい。
	生活等 基本的な生活習慣の確立 いじめ防止・対応	自他の個性を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする集団をつくる	3	自他を尊重し、様々な活動に積極的に参加できる生徒を育てる。	二者面談を学期1回以上実施	20	3.3	定期的な二者面談だけではなく、気になった子どもたちに対してこまめな声かけを行った。たびたび保健室に行く子どもの数は少なくない。子どもたちの変化を察知し、安心して主体的に取り組める環境を作っていきたい。
			4	生徒・保護者とのコミュニケーションを大切に	年次通信(毎月1回)やクラッシーでの配信	21	3.6	年次通信を毎月発行した。生徒向けClassiは毎朝配信した。子どもたちの変化に気づくたびに、担任は家庭に連絡をした。年次通信を紙で配付するべきかどうか、次年度は検討中である。
2年次	学習・進路 家庭学習の定着 進路情報の提供 面談(二者・三者)	GIGAスクール構想等により整備されたICT環境を有益に活用し、学習活動の充実を図る。	1	タブレット端末をはじめICT機器を効果的に活用した授業づくりを目指す。		22	3.3	多くの授業でICT機器を利用した教育活動が実践されているが、双方向対応が出来るのは数学や物理・化学に限られている。各教科の特性を考慮しながら出来るだけ広げていきたい。
			2	ICT機器を用いて進路情報を随時発信するとともに、対面形式での面談の機会を捉えて、生徒及び保護者とのコミュニケーションを深めていく。	年次通信(毎月1回)やクラッシーでの配信	23	3.5	次年度も年次通信を毎月発行して情報発信をすすめていきたい。またクラッシーによる生徒及び保護者への連絡事項配信については、特に保護者の関心が高く日々の閲覧数は、80~100を数えている。最終学年の次年度は、さらに関心が高まることが予想されるので、きめ細かく対応していきたい。
	生活等 基本的な生活習慣の確立 いじめ防止・対応	北高生として誇りをもち、社会に羽ばたく人材の育成につとめる。	3	学校行事や部活動、生徒会活動に積極的に参加させ、リーダーシップを身に付けた生徒を育てる。	生徒が主体的になって企画する行事を年間2回以上	24	3.3	「社会に目を向ける」をテーマに取り組んだ探究学習では、夏季休業中に各事業所との連携を取りながら積極的に取り組んだ。修学旅行では、旅行委員会を中心に自主的な行事を多く取り入れた。その結果、生徒がルールや時間を遵守して行動できたり、生徒の満足度も非常に高かった。次年度も「自由と責任」をベースに活動をすすめていきたい。
			4	明るく元気な挨拶、いじめは絶対しないなど他人への気配り、配慮を呼びかける。	年次集会は学期に2回以上	25	3.4	各学期前後に、年次集会を設定して年次目標達成に向けての取り組みを実践した。また人権HRを通して人権意識の高揚に努めた結果、「いじめアンケート」の回答は年間通して「いじめはゼロ」である。次年度も継続していきたい。
3年次	学習・進路 充実した授業 進路に応じた指導 面談(二者・三者)	進路目標を明確にし、その達成に向けて努力し続ける	1	少人数指導や習熟の程度に応じた指導により、知識・技能の定着を図る	長期休業中の補習に加え、早朝・放課後補習を実施	26	3.5	休業中の補習の参加人数をさらに増やせるように、生徒に対する動機付け、アプローチ方法を工夫する。
			2	入試に向けてのHR等の時間の活用および面談の実施	学期に1回以上	27	3.6	それぞれの進路実現に向けて細やかな面談が実施できた。
	生活等 人権LHR 面談(二者・三者) 保護者・進路ガイダンス部との連携	活気あふれる雰囲気を持ち、最高年次の自覚ある集団作り	3	生徒・保護者とのコミュニケーションを大切にする	年次通信(毎月1回)やクラッシーでの配信	28	3.5	活気あふれる雰囲気は、ある程度作ることができ、44回生全体で受験や進路決定に向けて立ち向かう意識を高めることができた。人権意識については、授業中だけのものではなく日ごろの学校活動全般の中で場面場面にに応じて育てていきたい。
			4	LHRIにおいての人権学習や行事への積極的な参加				
事務室	電話・来客等の対応 サービス等の事務処理 予算の管理・執行 施設、物品等の維持管理	相手の立場に立った対応や経費節減に努める。	1	受付窓口、電話での迅速で気持ちの良い対応	電話口3コールまでの対応	29	3.4	相手の立場に立ち、迅速で気持ちの良い対応を今後も心掛けたい。
			2	感染症対策を進めるとともに光熱水費の適切な節減に努める		30	3.4	先生方の協力もあり、感染症対策を実施しながら節電に努めることができた。
			3	校内の環境美化に努める		31	3.4	日々対応できる範囲で取り組んだ。今後も引き続き環境美化に努めたい。
学校全体として		主体的に人生を切り拓き、生涯にわたって挑戦し続ける人材の育成	1	校訓に基づく教育活動の実施と、生徒の自覚の高まり	学校生活における生徒の満足度85%以上	32	3.2	9割を超える生徒が本校に入学してよかったと考えており、引き続き年次や各部署が連携しながら、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行っていききたい。一方で地域貢献活動を通じて、地域との交流ができていないと考える生徒が3割程度いるので、地域貢献活動の参加についての工夫を図り、自己有用感を高めていきたい。
			2	地域との関わりや福祉施設への訪問、手伝い、交流を通じた自己有用感の育成	年2回以上	33	3.1	
			3	短期語学研修や加古北イングリッシュイマージョンプログラム(EIP)等を通じた国際感覚の育成	年1回以上の国際交流行事の実施	34	3.3	